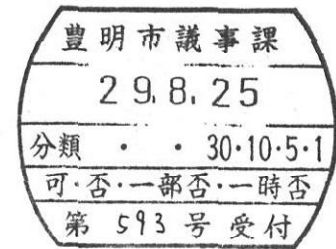


豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 毛受明宏



29 年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
平成 29 年 7 月 27 日	秋田県潟上市	学力向上の取り組みについて
28 日	秋田県秋田市	もったいないアクション(食品ロス)について

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

行政視察報告書

毛受明宏

平成 29 年 7 月 27 日

秋田県潟上市「学力向上の取り組みについて」



潟上市教育大綱(教育目標)「次代の人が育つ、生涯学習都市」

市民の豊かに生きる力を育成し、生涯にわたり切れ目のない学びが出来る潟上市を目指す。

潟上市の概況として

- 1 県都秋田市に接し、面積は県内最小の市、人口減少率は低い。
- 2 中央部は穀倉地帯で稲作の他に果樹栽培、海岸部は保健保安林が続く海岸砂丘が続く。
- 3 自動車道等が整備され、新幹線、空港へは 30 分程度の距離、アクセス性があり、秋田市に隣接したベッドタウン。

潟上市の児童生徒数の推移

平成 17 年 3 町合併により 3 中学校 7 小学校

平成 29 年 3 中学校 6 小学校 = 1 中学校区 2 小学校

平成 28 年 小学校 1523 人 中学校 892 人 = 2415 人

平成 29 年 小学校 1458 人 中学校 869 人 = 2327 人 前年度比 -88 人

平成 17 年 ⇒ 平成 29 年 (12 年間) 3192 人 ⇒ 2327 人 = -865 人 約 1/4 減

今後の重点事項

確かな学力と豊かな人間性の教育・ふるさと教育の充実



他者とのつながりをもって学びを共有・深化する子ども

[幼・保・小・中の連携 校種間を貫く教育の推進]

[キャリア教育の視点を生かしたふるさと教育]

[特別支援教育の視点を生かした魅力ある学校・学級づくりの推進]

分析として

《これまでもずっと、これからもずっと》

◎昔からの生活習慣(ライフスタイル)の維持

・秋田県は児童生徒の運動能力も恵まれている。昔からの生活習慣の賜で、よく食べて、よく寝る。

・拡大家族が多い事と地域の人たちが子どもを見守る風土がある。優しい触れ合いが心を育てる。

・学習塾もなければ、遊興施設もない。授業をベースとした家庭学習の習慣化を目指す学校の取組。学習ノートは自らの課題で取り組み、担当教師等がコメントを書き込む。学習意欲につなげる事を狙いにずっと進めてきている。

◎子どもの個性と能力の伸長を支える学校の取組

・教育活動の場面における意図的な手立ての工夫

・秋田の「探求型授業」(課題解決のプロセス重視)の推進

【これまでの財産だけに頼ってはならない。子ども達や大人の生活変化に対応した教育環境に沿った教育活動の提供が必要。】

ICT の活用について

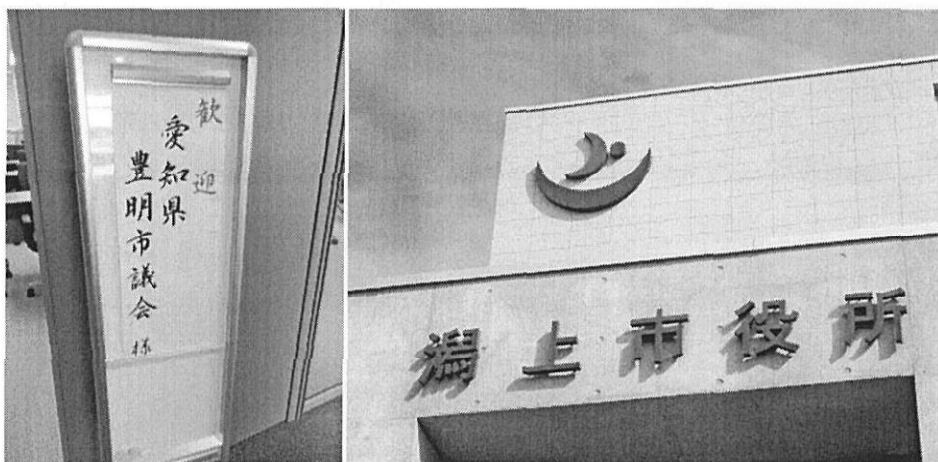
・現段階では限られた数のタブレットにて授業を推進

・今後、生徒数に合わせたタブレット導入を検討中

まとめ

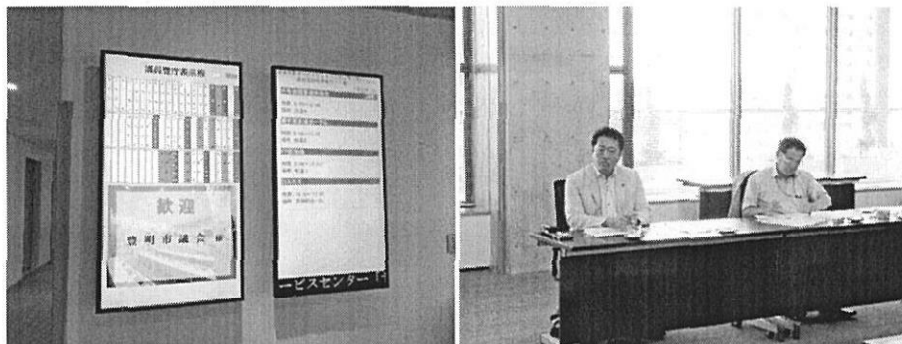
秋田県は子ども達を取り巻く環境が整っている。

豊明市においては学校・地域・家庭の連携強化が必要と考える。



平成 29 年 7 月 28 日

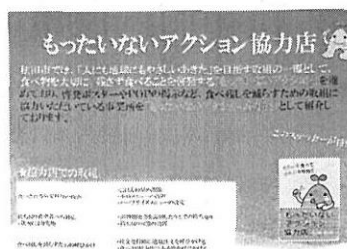
秋田県秋田市「秋田市における食品ロス削減の取り組みについて」



秋田市のごみの排出量の推移

秋田市全体のごみの排出量は 13.3 万トン～14.5 万トン台で推移

平成 24 年度以降は家庭ごみ有料化の影響もあり減少しているが、事業系ごみはほぼ横ばいで全体排出量の約 44%を占めている。



日本は食料自給率が低く、その食料の約 6 割を海外に依存

世界の食料市場で他国の食糧アクセスに影響を与える立場であるにもかかわらず、日本の食品ロスは世界全体の食糧援助量の約 2 倍、日本の食用の魚介類の量に匹敵する。

国民一人ひとりあたりの食品ロス量はおよそ茶碗 1 杯分のご飯の量に相当する。

日本は「もったいない」発祥国として、食品関連事業者、関係府省庁、地方自治体、関係団体、そして消費者一人ひとりが協力して、食品ロス削減に向けた取り組みを行っていく必要があります、それぞれの立場で取り組むこと、協力しながら取り組むこと等の出来る事から着実に進めて行く事が大切になる。

日本の食品ロスの現状

食品製造業 1594 万トン(83%)＋外食産業 188 万トン(10%)＋食品小売業 124 万トン(6%)＋食品卸売業 21 万トン(1%)＝発生量合計 1927 万トン 〈平成 25 年度統計〉

秋田市の食品廃棄物の現状

市全体に対する食べ残し等を含む「生ごみ」は、家庭ごみの約半分 50.13% 〈H27〉

その中でも手付かずの食材がたくさん捨てられ、真空パックされた魚の切り身やおもち、漬物、うどんやきりたんぽ、傷んでいない野菜やお弁当、パックのままの魚や肉、未開封の冷凍食品やレトルト食品も捨てられる。



このような現状から秋田市が進める食品ロス削減の取り組みは(市民に向けた啓発)環境部で開催するイベントやマイバッグづくり、生ごみ堆肥づくり講座、町内会などに向いて行く説明会等で、秋田市における食品廃棄物の現状をお知らせし「今日から取り組める生ごみ減量のポイント」を紹介している。

食べ物を「生ごみ」にしないために

- 1 計画的に購入する
- 2 食べきれぬ量を調理する
- 3 おいしく食べきる

食品ロス削減の取り組みとして、市民から残った料理のリメイクアイデアや食材の使いきり調理法などを募集して「食べきりアイデアレシピ集」を作成。

平成 28 年 8 月にはタニタ食堂と共催し「食べきりアイデアカフェ」を開催、定期的な開催で市民に食品ロスの啓発を進める。



「食う～べえタイム」のご案内

宴会の開始時と終了間際に「食う～べえタイム」として、自分の席で料理を楽しむ時間を設け、お料理をおいしく食べきましょう！と呼びかけを行っている

※「食う～べえタイムとは」乾杯から 30 分と中締め 10 分を目安に自席で料理を楽しむ。宴会進行の司会者からアナウンスする。

ホテルや宴会場に協力を依頼、もちろん市職員懇親会で実施を呼びかける。

「食べきり啓発ポスター・啓発 POP」

事業者のみではなく、来店する市民等の食べ残しごみ減量への関心を高めるために、市内飲食店等に「啓発ポスター」や「啓発 POP」の設置を依頼し、市内の多くの飲食店に協力を得ている。

「もったいないアクション協力店」のご案内

協力店には取り組みとして、「食べ残し啓発ポスター」や「啓発 POP」の設置、宴会時の「食う～べえタイム」の実施、食べ残しを減らすため①食べきれぬ量での料理の提供(小盛り有ります表示やハーフサイズメニューの設定)②持ち帰り希望者へ対応(状況により実施)③その他、食べ残しを減らすための工夫をお願いしている。

まとめ

宴会時に自席を移動し、結局食べ残すというのをよく見かける光景、豊明市においても市内飲食店への協力の呼び掛けと先ずもって市民の理解を得るべきではないかと考える。